



全国の既婚女性1624人に防災意識と対策について聞いた。

<自然災害への不安>

自然災害について、不安に思うものは何かを聞いたところ、「地震」が98.7%とほぼ全員となっており、次いで「台風などの風水害」が65.0%となった。(グラフ)

回答した、不安に思う自然災害のうち、今一番心配なものは、「地震」が93.3%と圧倒的であった。(グラフ)

自然災害が起こった場合に、最も心配することは、「家族がバラバラの時に被災すること」が48.0%で最も多く、次いで「家屋の破損・倒壊」33.0%となった。(グラフ)

年代別でみると、20代以下～50代では「家族がバラバラの時に被災すること」が各年代とも最も多いのに対し、60代以上では「家屋の破損・倒壊」が多く、半数以上を占めた。

<防災意識>

この1年間に、防災への意識は変化したかを聞いたところ、「どちらかといえば高まった」19.7%、「変化なし」73.3%、「どちらかといえば低下した」7.0%と、変化しない層が大多数となった。(グラフ)

意識が変化すると回答した人にその理由をフリーアンサーで聞いた。

「どちらかといえば高まった」人では、「最近、ニュースでも各地の水害をよく聞かし、ニュース速報で地震速報も増えてきている気がする。異常気象がどんどん多くなってきているので、いつ自分達が被災してもおかしくないため(28歳/大阪府)、「子供が二人になってから、避難時の時や水、食糧の確保などを真剣に考えるようになった(36歳/東京都)、「新型インフルエンザなどにより、家で備蓄をする必要性を感じたから(38歳/神奈川県)、「他の地域での災害をニュース等で知る機会が増えて もしもの時に向けての災害の知識や準備等の意識が高まった(35歳/京都府)、「などの意見が多く挙げられた。

「どちらかといえば低下した」人では、「阪神大震災を経験したのに、月日が経つと、しだいに忘れていってしまう(33歳/兵庫県)、「一度、防災リュックを用意したことで安心してしまい、その後の点検がなかなかできない(45歳/神奈川県)、「しばらく地震がないと意識が低下していく(39歳/愛知県)、「日々の生活が逼迫してきたため、防災のほうにまで気が回らなくなってしまった(51歳/神奈川) などの意見が挙げられた。

<災害への対策>

[家具など]

地震などの災害に備えて、家具の転倒防止対策などを「している」人は46.9%。「していない」人は53.1%と、「している」人に比べやや多い。

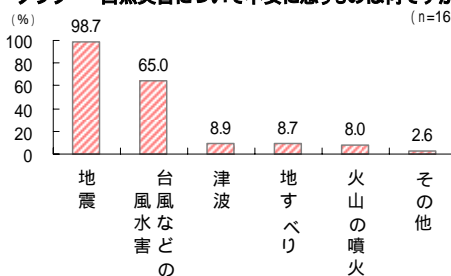
年代別でみると、年代が高いほど、家具の転倒防止対策などを「している」人が多く、20代以下では、35.5%であるのに対し、60代以上では58.7%と、20代以下の約1.6倍となった。(グラフ)

リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

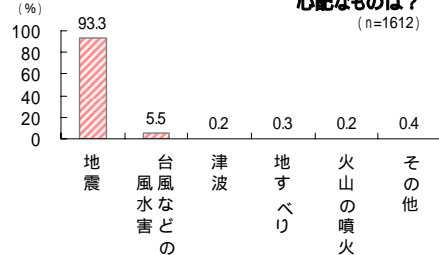
ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430

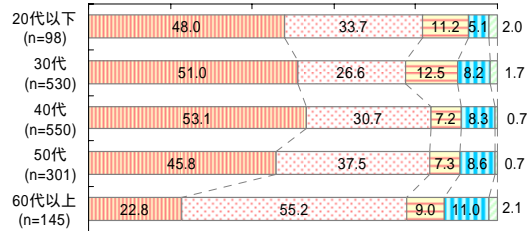
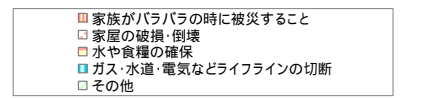
グラフ 自然災害について不安に思うものは何ですか? (n=1611)



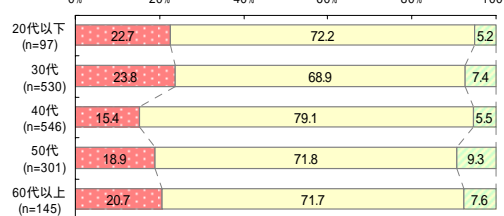
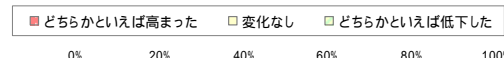
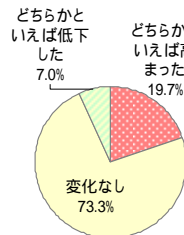
グラフ で回答した自然災害のうち、今一番心配なものは? (n=1612)



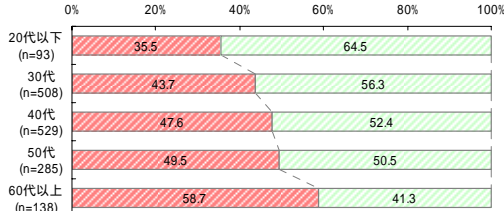
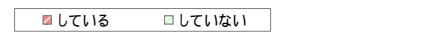
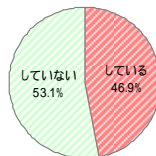
グラフ で選択した自然災害が起こった場合に、最も心配することは? (n=1615)



グラフ この1年間で、防災意識は変化しましたか? (n=1619)



グラフ 地震などの災害に備えて家具の転倒防止対策などはしていますか? (n=1553)





<災害への対策>

【非常持出袋】

災害に備えて、家庭で非常持出袋を用意しているかを聞いたところ、「用意している」人は45.5%、「用意していない」人は54.5%となった。

年代別で見ると、家庭で非常持出袋を用意しているのは、年代が高いほど多く、50代・60代以上では5割以上となった。(グラフ)

非常持出袋を「用意している」と回答した人に、非常持出袋の点検をこの1年間で行ったかを聞く、「行った」人は46.2%であった。

年代別で見ると、20代では他の年代に比べ「行った」人の割合がやや少なく35.3%であったが、30代以上では、4割以上となった。(グラフ)

【備蓄】

災害に備えて、家庭で意識的に備蓄しているものは何かを聞いたところ、「水」が56.3%で最も多く、次いで「食糧」47.3%、「電池」39.1%、「タオル」32.6%と続く。

年代別で見ると、20代・30代では「何も備蓄していない」人が約3割、40代～60代以上では約2割となっており、30代以下と40代以上で備蓄への意識に差がみられた。また、年代が高いほど備蓄している品目数が多くなっている。(グラフ)

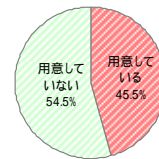
【家族の避難場所・連絡方法】

災害に備えて、家族で避難場所や連絡の取り方など、決めていることはあるかでは、「ある」28.3%と、約3割の家庭で決めていることがあった。(グラフ)

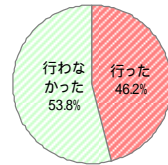
<回答者プロフィール>

年齢:29歳以下 8.3%、30代 35.8%、40代 31.4%、50代以上 24.5%、平均年齢 42.62歳。
働き方:専業主婦 51.7%、フルタイムワーク 21.1%、パート・アルバイトワーク 21.3%、その他 5.9%。 子供の有無:あり 84.3%、なし 15.7%。
家族の人数:2人以下 34.6%、3人 28.5%、4人 28.7%、5人以上 8.1%。
居住地:東京都 41.0%、神奈川 30.0%、千葉県 18.6%、埼玉県 10.4%。

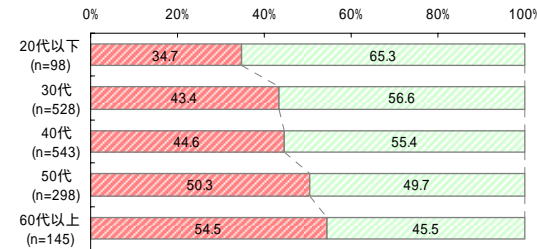
グラフ 災害に備えて、あなたの家庭では非常持出袋を用意していますか？ (n=1612)



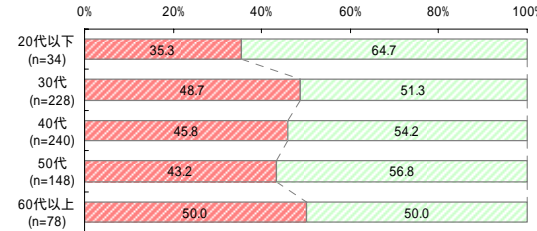
グラフ <非常持出袋を用意している人>非常持出袋の点検をこの1年間で行いましたか？ (n=829)



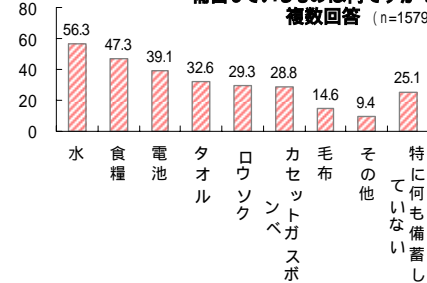
■用意している □用意していない



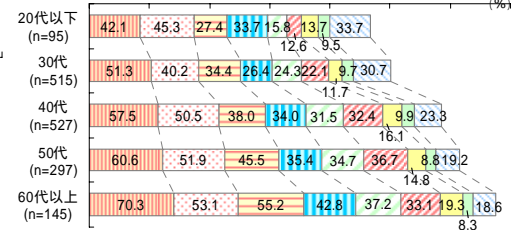
■行った □行かなかった



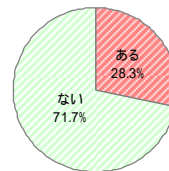
グラフ 災害に備えて、あなたの家庭で意識的に備蓄しているものは何ですか？ 複数回答 (n=1579)



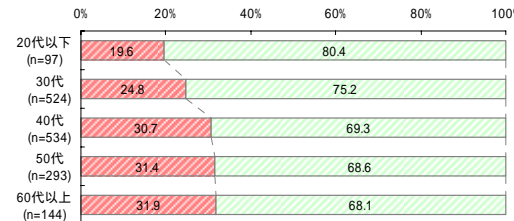
■水 ■食糧 ■電池 ■タオル ■ロウソク ■カセットガスボンベ ■毛布 ■その他 ■特に何も備蓄していない



グラフ 災害に備えて、家族で避難場所や連絡の取り方など、決めていることはありますか？ (n=1267)



■ある □ない



リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430